

社会情勢の変化・市民ニーズの把握

事務事業を取り巻く環境《対象や法令根拠及び社会環境の変化(開始時期又は5年前との比較)・市民からの意見や要望》 特になし

【CHECK】事務事業の一次評価

必要性評価	①行政関与の必要性 《目的達成に向けて、行政の範囲は行政の役割から見て適切か？また市民の意向や社会の要請から見て適切か？》 ②総合計画との整合性、対象と意図の妥当性 《目的(対象と意図)は総合計画と結びついているか？実態(社会環境の変化)に合っているか？》	図書館は、すべての利用者へ資料及び幅広い情報を提供する場であり、情報提供のための資料収集・保存には適している。
	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	
有効性評価	③成果の向上余地 《成果は、昨年度と比べてどうであったか？工夫をすることで今後、更なる成果向上ができるか？》 ④成果の波及効果《全市民、または多くの市民や他の施策への波及効果があるか？》	
	<input checked="" type="checkbox"/> 向上の余地がない <input type="checkbox"/> 向上の余地がある	利用者が安心・安全に利用できるための施設の維持管理は図書館運営の基本である。
効率性評価	⑤事業費の削減余地 《活動量を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の見直し、市民の協力など)》 ⑥人件費の削減余地 《活動量を下げずに人件費を削減できないか？(業務プロセスの見直し、個々の業務の効率化等、業務委託や臨時雇用等)》	
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減の余地がない <input type="checkbox"/> 削減の余地がある	岩間図書館は、複合施設として市民センターいわまの2階に設置されているため、光熱水費等の維持費は、岩間支所地域課管理であり、これ以上の削減余地はない。
一次評価結果 必要性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある		全体総括(振り返り、反省点) 施設の維持管理については、利用増加の促進及びサービスの向上が図れた。

【ACTION】事務事業の改革・改善

①改革・改善案
②改革・改善案を実現する上で克服すべき課題と解決方法

フォローアップ 前年度の課題や問題点

③前年度の改革・改善案
・開架フロア照明のちらつき防止 ・視聴覚機器等の修繕への対応
④取組状況

その他

⑤事務事業を休止、廃止した場合の成果への影響の有無とその対策 <input checked="" type="checkbox"/> 影響は大きく、問題の発生が予想される <input type="checkbox"/> 代替案や対策を採ることで対応できる この事業がなされなければ、本市の図書館サービス事業を実施すること不可能
⑥類似事業との統廃合・連携の可能性(民間活動も含む) <input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない <input type="checkbox"/> 他に手段がある(事務事業名・活動名) 名称 <input type="text"/> <input type="checkbox"/> 他の事務事業や活動と統廃合や連携ができる <input type="checkbox"/> 統廃合や連携はできない・既に連携している

【PLAN】事務事業の計画

総合評価	今後の方向性	現行どおり継続	評価理由 市民の生涯学習を推進し、本市の政策・施策を実現する上で必要不可欠な事業であり、現行どおり継続するのが適当である。
	資源配分	現状維持	

実施計画・事務事業評価共通調書

【PLAN】事務事業の計画 事務事業番号 2

記入日 平成26年3月31日
所属部課名 教育委員会生涯学習課

事務事業名	図書館サービス事業		評価区分	事務事業性質	政策的事業	後期基本計画重点視点	補助単独区分		所管省庁	
			評価事業	重要事務事業	—		市単独			
				総合計画実施計画	○	健康都市づくり				
総合計画	政策	5 人が輝き、豊かな文化を創造・発信するまちづくり【教育・文化】	新規・継続	継続			補助率			
	小政策	2 だれもが自ら学び、能力を発揮できる環境をつくります	開始年度	終了年度						
	施策	1 生涯学習	事業期間	S60	単年度繰り返し	共催者・関係団体				
	小施策	2 施設・設備等の活用と充実								
予算科目	会計	款	項	目	細目名	関連計画				
	一般	教育費	社会教育費	図書館費	図書館標準的事業	根拠法令	(法定)図書館法			
						実施手法	補助金の有無	負担金の有無		
						直営	—	—		
1 【事務事業の全体概要及び背景】		2 【H25事業計画(主に担当者が行う業務内容及び手順)】			3 【年度目標】		4 【事業費の内容(決算額)】			
図書館資料及び、視聴覚資料の貸出は、図書館法における図書館業務の根幹をなす業務		・図書館資料の選定・発注・受入・配架、相互貸借手続き ・館内資料展示14本(重点視点以外の時事的テーマを含む)			・各種資料、情報の提供と発信		・需用費 2,054千円 ・委託料 1,028千円 ・使用料 2,194千円 ・備品購入費 4,833千円 ・負担金 28千円			
		H26事業計画		H27事業計画		H28事業計画				
		同上		同上		同上				

5 事務事業の目的と手段										単位	
目的	①対象(働きかける相手・もの)			市民・利用者			④対象指標		岩間地区の市民		人
	②事務事業の意図(どのようにしたいのか。どのような状態にしたいのか)			・市民生活の質を高め、豊かで安心できるものとなるように、できるだけ多くの市民、利用者が多角的な資料・情報と学習機会が得られる			⑤成果指標		入館者数 資料貸出冊・点数 市民一人当たりの貸出点数		人 冊・点 点
手段	③目的を達成するために実際に行った行政活動(サービス)			・図書館資料を確保し、充実する。 ・利用者の要望に応じ、多角的な資料、情報と学習機会を提供する。 ・市民、利用者が必要な資料、情報を得られるように人的支援(資料案内・調査=レファレンス)を実施する。			⑥活動指標		開館日数 開館時間 資料購入点数		日 時間 点

【DO】事務事業の実施

事業費及び指標の推移																			
		事業費	単位	22年度(実績)		23年度(実績)		24年度(実績)		25年度(実績)		26年度(計画)		27年度(計画)		28年度(計画)			
投入コスト(インプット)	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円															
			県支出金	千円															
			地方債	千円															
			その他	千円															
		一般財源	千円		6,636		7,440		9,523		10,137		13,756		13,756		13,756		14,176
	事業費計(ア)	千円		6,636		7,440		9,523		10,137		13,756		13,756		13,756		14,176	
人件費		職員割合	人 千円	2.00	15,000	2.00	15,000	1.95	14,625	1.800	13,500	1.800	13,500	1.800	13,500	1.800	13,500		
		時間外	千円		77		89		130		131		130		130		130		
		嘱託臨時	千円		4,725		6,914		8,195		8,582		8,582		8,582		8,582		
		他課の協力分	千円								8,463								
		人件費計(イ)	千円		19,802		22,003		22,950		30,676		22,212		22,212		22,212		
	トータルコスト(ア)+(イ)	千円		26,438		29,443		32,473		40,813		35,968		35,968		36,388			
		指標区分	単位	22年度(実績)		23年度(実績)		24年度(実績)		25年度(実績)		26年度(目標)		27年度(目標)		28年度(目標)			
活動指標	開館日数	日		269		293		296		293		295		292		296			
	開館時間	時間		2,690		2,806		2,947		2,925		2,950		2,920		2,960			
	資料購入点数	点		4,450		3,250		3,208		3,174		3,400		3,400		3,400			
対象指標	岩間地区の市民	人		16,025		15,694		15,882		15,723		15,500		15,500		15,500			
成果指標	入館者数	人		108,105		111,383		118,232		115,625		120,000		120,000		120,000			
	資料貸出冊・点数	冊・点		216,716		220,702		230,449		217,178		231,000		231,000		231,000			
	市民一人当たりの貸出点数	点		14		15		15		14		15		15		15			

社会情勢の変化・市民ニーズの把握

事務事業を取り巻く環境《対象や法令根拠及び社会環境の変化(開始時期又は5年前との比較)・市民からの意見や要望》 図書館資料の貸し出し実績は年々増えており、新刊書購入に対する市民のニーズは高まっているが、行政全体を取り巻く経済情勢の悪化により、年々図書館資料費が削減されておりサービスレベルの維持が困難な状況である。
--

【CHECK】事務事業の一次評価

必要性評価	①行政関与の必要性 《目的達成に向けて、行政の範囲は行政の役割から見て適切か？また市民の意向や社会の要請から見て適切か？》 ②総合計画との整合性、対象と意図の妥当性 《目的(対象と意図)は総合計画と結びついているか？実態(社会環境の変化)に合っているか？》	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	図書館は、「教育機関」「社会教育機関」という法的位置づけがされており、学校教育、家庭教育と相まって、生涯学習の一翼を担っている。
	③成果の向上余地 《成果は、昨年度と比べてどうであったか？工夫をすることで今後、更なる成果向上ができるか？》 ④成果の波及効果《全市民、または多くの市民や他の施策への波及効果があるか？》	<input checked="" type="checkbox"/> 向上の余地がない <input type="checkbox"/> 向上の余地がある	図書館の利用は、もっぱら利用者の自主性・自発性に基づいている。また、図書館資料は学習資源であり、その利用は自主性・自発性を旨とする生涯学習を端的な形で表しており、有効性は高く、利用も伸びている。
有効性評価	⑤事業費の削減余地 《活動量を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の見直し、市民の協力など)》 ⑥人件費の削減余地 《活動量を下げずに人件費を削減できないか？(業務プロセスの見直し、個々の業務の効率化等、業務委託や臨時雇用等)》	<input checked="" type="checkbox"/> 削減の余地がない <input type="checkbox"/> 削減の余地がある	資料の購入等については、3館で協議し購入計画を立てている。また、各種サービス、事業については、各図書館の状況に応じて展開している。
	一次評価結果 必要性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	全体総括(振り返り、反省点) 本事業は、図書館の根幹的的事业であり、利用者が必要とする資料の収集・提供を行い、利用者の教育と文化の発展に貢献した。	

【ACTION】事務事業の改革・改善

①改革・改善案
②改革・改善案を実現する上で克服すべき課題と解決方法

フォローアップ 前年度の課題や問題点

③前年度の改革・改善案
課題なし
④取組状況

その他

⑤事務事業を休止、廃止した場合の成果への影響の有無とその対策 <input checked="" type="checkbox"/> 影響は大きく、問題の発生が予想される <input type="checkbox"/> 代替案や対策を採ることで対応できる 本事業は、図書館の根幹的的事业であり、これを廃止すれば、図書館としての体をなさず、本市の生涯学習推進上、支障が出る。
⑥類似事業との統廃合・連携の可能性(民間活動も含む) <input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない <input type="checkbox"/> 他に手段がある(事務事業名・活動名) 名称 <input type="text"/> <input type="checkbox"/> 他の事務事業や活動と統廃合や連携ができる <input type="checkbox"/> 統廃合や連携はできない・既に連携している

【PLAN】事務事業の計画

総合評価	今後の方向性	現行どおり継続	評価理由 市民の盛んな利用は、当事業に対する市民の高い評価を裏付けるものであり、現行どおり継続するのが適当である。
	資源配分	現状維持	

実施計画・事務事業評価共通調書

記入日	平成26年3月31日
所属部課名	教育委員会生涯学習課

【PLAN】事務事業の計画 事務事業番号 3

事務事業名	子ども読書活動推進事業			評価区分	事務事業性質	政策的事業	後期基本計画重点視点	補助単独区分	所管省庁	
				評価事業	重要事務事業	—			市単独	
					総合計画実施計画	○	地域の活性化			
	総合計画	政策	5人が輝き、豊かな文化を創造・発信するまちづくり【教育・文化】		新規・継続	継続			補助率	
	小政策	2だれもが自ら学び、能力を発揮できる環境をつくります		開始年度	終了年度					
	施策	1生涯学習		事業期間	H20	単年度繰り返し	共催者・関係団体	・読み聞かせボランティア等		
	小施策	1学習情報及び学習機会の提供								
予算科目	会計	款	項	目	細目名	関連計画	笠間市子ども読書活動推進計画			
	一般	教育費	社会教育費	図書館費	図書館費標準的的事业	根拠法令	(法定)子どもの読書活動の推進に関する法律			
						実施手法	補助金の有無	負担金の有無		
						直営	—	—		

1【事務事業の全体概要及び背景】	2【H25事業計画(主に担当者が行う業務内容及び手順)】	3【年度目標】	4【事業費の内容(決算額)】
・ブックスタート事業やおはなし会を開催し、幼少期から本に親しむ機会を提供する	・学校等への資料の貸出 ・ブックスタートやおはなし会、読書フェスティバル等の開催 ・図書館での絵本や児童書の貸出	子どもの読書活動の推進	・需用費 57千円 ・役務費 42千円 ・委託料 1千円 ・資料購入費 (図書館サービスに計上)
	H26事業計画	H27事業計画	H28事業計画
	同上	同上	同上

5 事務事業の目的と手段		単位			
目的	①対象(働きかける相手・もの)	乳幼児から高校生まで	④対象指標	乳幼児から高校生まで	人
	②事務事業の意図(どのようにしたいのか。どうい状態にしたいのか)	・図書館資料、読書を通して親子のふれあい、語り合い、絆を確かなものにする。 ・事業への参加を通して子育て支援が得られ、読書活動や図書館利用が盛んになる。	⑤成果指標	高校生までの貸出冊数	冊
手段	③目的を達成するために実際に行った行政活動(サービス)	・地域や学校、施設等との連携を図り読書活動、子育ての支援と資料の提供をする。 ・ブックスタートやおはなし会、子ども読書フェスティバルなどの事業を開催し、読書に親しむ機会を提供する。 ・年齢に応じた資料、情報の提供や事業を開催する。	⑥活動指標	おはなし会・読書フェスティバル参加者	人
				開館日数(貸出日数)	日
				ブックスタート開催日数	日
				おはなし会・読書フェスティバル開催日	日

9																			
事業費及び指標の推移																			
		事業費	単位	22年度(実績)		23年度(実績)		24年度(実績)		25年度(実績)		26年度(計画)		27年度(計画)		28年度(計画)			
投入コスト(インプット)	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円															
			県支出金	千円															
			地方債	千円															
			その他	千円															
			一般財源	千円		184		39		251		100		243		243		243	
		事業費計(ア)	千円		184		39		251		100		243		243		243		
人件費		職員割合	人 千円	0.65	4,875	0.65	4,875	0.65	4,875	0.750	5,625	0.750	5,625	0.750	5,625	0.750	5,625		
		時間外	千円		12		86		86		115		119		119		119		
		嘱託臨時	千円		405		2,996		343		353		361		361		361		
		他課の協力分	千円																
		人件費計(イ)	千円		5,292		7,957		5,304		6,093		6,105		6,105		6,105		
	トータルコスト(ア)+(イ)	千円		5,476		7,996		5,555		6,193		6,348		6,348		6,348			
		指標区分	単位	22年度(実績)		23年度(実績)		24年度(実績)		25年度(実績)		26年度(目標)		27年度(目標)		28年度(目標)			
活動指標	開館日数(貸出日数)	日		269		293		296		293		295		292		296			
	ブックスタート開催日数	日		6		6		6		6		6		6		6			
	おはなし会・読書フェスティバル開催日数	日		50		51		52		50		52		52		52			
対象指標	乳幼児から高校生まで	人		13,538		13,346		13,084		12,800		13,000		13,000		13,000			
	ブックスタート対象者	人		85		96		103		89		90		90		90			
	乳幼児から児童まで	人		8,770		8,608		8,445		8,240		8,400		8,400		8,400			
	高校生までの貸出冊数	冊		51,598		55,297		58,599		51,972		59,000		59,000		59,000			
成果指標	ブックスタート参加者数	人		97		93		92		83		95		95		95			
	おはなし会・読書フェスティバル参加者数	人		43		53		373		350		380		380		380			

社会情勢の変化・市民ニーズの把握

事務事業を取り巻く環境《対象や法令根拠及び社会環境の変化(開始時期又は5年前との比較)・市民からの意見や要望》 特になし

【CHECK】事務事業の一次評価

必要性評価	①行政関与の必要性《目的達成に向けて、行政の範囲は行政の役割から見て適切か？また市民の意向や社会の要請から見て適切か？》 ②総合計画との整合性、対象と意図の妥当性《目的(対象と意図)は総合計画と結びついているか？実態(社会環境の変化)に合っているか？》	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	本市では「笠間市子ども読書活動推進計画」を策定し、市内小中学校、各関係機関やボランティア団体との連携を図り実施している。本に触れる機会の増加は、本を読む力の増加につながる。本を読む力は学ぶ力の基礎であり、必要性は高い。
	③成果の向上余地《成果は、昨年度と比べてどうであったか？工夫をすることで今後、更なる成果向上ができるか？》 ④成果の波及効果《全市民、または多くの市民や他の施策への波及効果があるか？》	<input checked="" type="checkbox"/> 向上の余地がない <input type="checkbox"/> 向上の余地がある	図書館で所蔵している児童書を、読み聞かせや各種イベント、学校との連携を通じて子どもたちにその利用(貸出)を促すという方法は、具体的かつ直接的でわかりやすい方法である。
有効性評価	⑤事業費の削減余地《活動量を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の見直し、市民の協力など)》 ⑥人件費の削減余地《活動量を下げずに人件費を削減できないか？(業務プロセスの見直し、個々の業務の効率化等、業務委託や臨時雇用等)》	<input checked="" type="checkbox"/> 削減の余地がない <input type="checkbox"/> 削減の余地がある	長期的な統計・評価も必要となるが、子どもが自主的に読書をするための本との出会いや読書へのきっかけ作りは、図書館利用や読書活動を推進する非常に効率的な方法である。
	一次評価結果	必要性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	全体総括(振り返り、反省点) 本に触れる機会の増加は、本を読む機会の増加につながる。本を読む力は、学ぶ力の基礎であり、施策の実現に貢献した。

【ACTION】事務事業の改革・改善

①改革・改善案
②改革・改善案を実現する上で克服すべき課題と解決方法

フォローアップ 前年度の課題や問題点

③前年度の改革・改善案
課題なし
④取組状況

その他

⑤事務事業を休止、廃止した場合の成果への影響の有無とその対策 <input checked="" type="checkbox"/> 影響は大きく、問題の発生が予想される <input type="checkbox"/> 代替案や対策を採ることで対応できる 本市が策定した「笠間市子ども読書活動推進計画」との整合性が取れなくなる。また、子どもが本に触れる機会が少なくなる。
⑥類似事業との統廃合・連携の可能性(民間活動も含む) <input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない <input type="checkbox"/> 他に手段がある(事務事業名・活動名) 名称 <input type="text"/> <input type="checkbox"/> 他の事務事業や活動と統廃合や連携ができる <input type="checkbox"/> 統廃合や連携はできない・既に連携している

【PLAN】事務事業の計画

総合評価	今後の方向性	現行どおり継続	評価理由 子どもが本に触れ合う機会を増やし、図書館の使い方を学ぶ機会を提供し続けることは、学校教育との連携や生涯学習を推進する市の政策・施策に沿っており、現行どおり継続するのが適当である。
	資源配分	現状維持	